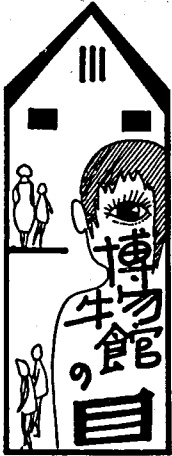


# 岐阜の博物館

〒501-32 関市小屋名  
(百年公園内)  
岐阜県博物館内  
岐阜県博物館協会  
TEL(05752) 8-3111(代)  
振替 名古屋 6 37909

## ジオラマ展示は何のために！



少し前に、埼玉県立自然史博物館を見学した。生物内容の常設展示ホールを一巡して、ほんとうに「アック」と驚いてしまった。・冬枯れの雑木林と池や沼に始まり・みどりのこい夏のアカマツ林・いろいろられるブナ林と溪流・石灰岩にぎざまれた自然の造形・シャクナゲ咲く初夏の原生林と、現場どおりの一大ジオラマが続いているのだった。い

わば埼玉県内の山岳に見られる垂直分布帯の代表的な植生が館内に再現され、コナラ林やハンノキ林、そしてアカマツ林、ブナ林、コメツガ林が登場し、カモシカ、ツキノワグマをはじめ大小のは乳動物、野鳥類の多くがはく製で生態展示されていた。科学的に、しかも精巧に再現された実物大ジオラマの中を、くぐって通り抜け、短時間に、館内に居ながらにして、平地から亜高山帯上部までの自然生態系を見ることができる。何とも驚かさずにはいられなかった。しかし、「アッ」という意味には、すばらしいの反面、「これで、ほんとうに常設展としていいものだろうか」との問いかけが強烈であったのが正直なところである。

多くの人々の知恵をしぼり、討論に討論を重ねたうえでの展示計画であり、それなりの意図も深いものがあるのだろう。博物館の機能は、展示室だけで発揮されるものでもないし、新しい自然史博物館としての諸活動も、全体的に構造化され、自然学習の教育普及活動も重視されていることであろう。そうした諸活動はさておくとしても、生物内容の常設展示がジオラマだけの大ホールだということには、どうしても割り切れない何かを強くするのだった。

自然観察会や現場へ出かけての教育普及活動

が重視されているのなら、なおさら、何億円もの費用をかけて、館内に偽自然を再現する必然性がどこにあるのだろうかとさえ思えた。足を運んで汗水流し、四季折々に野外にあるがままのハンノキ林を、コナラ林を、そしてブナ林やコメツガ林を直接体験することこそ、理想的なことは論を待たないはずである。分園とか附属施設として、どこかの山の斜面に、垂直分布帯をめぐる自然観察路なり自然園を持つ方向にこそ向かうべきではないだろうか。

博物館内の常設展示の内容や手段には、もっと何か他のものがあるように思えてならない。生涯教育の場として、自然学習の導入でありまとめの段階に役立つ自己学習の場だとすると、ジオラマは、展示構成の流れの中での、ポイントであり節として使われるべき手段ではないのだろうか。何もカビくさい古ぼけた標本を、分類体系に従って並べて見せるような、分類展示がないといっているのではない。収蔵庫に整理保存された自然資料が豊富にあれば、そしてそれらが県民の共有財産として活用される方途が確立されていれば、収蔵庫の存在それ自体がすばらしい分類展示となっているからだ。それにしても、「もの」があることこそ博物館の生命線であるだけに、常設展示室がジオラマホールだけの生物内容には、考えさせられたのだった。多くの方々のご意見を聞かせてほしいものである。(S.O)



## 神戸町五鳳記念美術館

〒503-23 安八郡神戸町大字神戸  
1220番地の1  
TEL 058427-7320番(公民館)

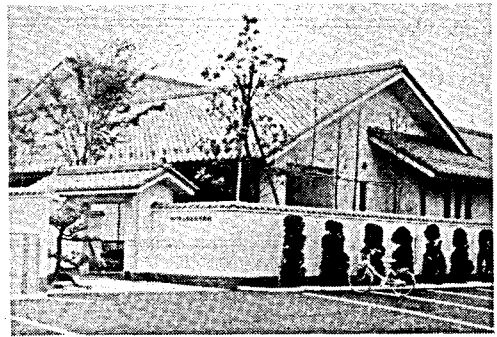
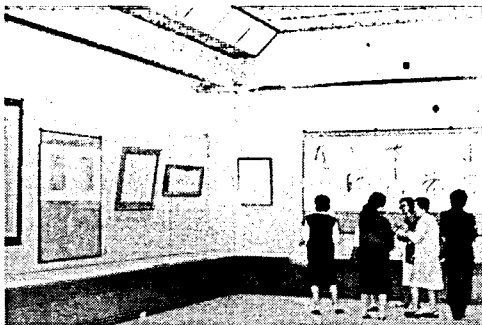


すばらしい  
五鳳記念美術  
館が、今春完  
成しました。  
和風日本調の  
端正で格調高  
い建物で、「書」  
の美術館にふ  
さわしいもの  
です。

日比野五鳳  
翁は、明治34

年生まれ、神戸町(旧南平野村)南平野小学校、  
岐阜県立大垣中学校を卒業、教員生活のかたわ  
ら独学で「仮名書」の研究をされ、昭和26年に、  
日展で特選受賞をはじめ、数々の名作を残され、  
その作品は、政府買上はもとより、東京国立博  
物館、東京都美術館、京都市美術館等にも収蔵  
されています。日本芸術院会員、日本書芸院名  
誉顧問、日展顧問、そして、昭和58年に紺綬褒  
章を受けられ、同時に文化功労者としても顕彰  
されました。郷土岐阜県の生んだ偉大なる書の  
人、日比野五鳳翁について、私たちは、これま

(展示室のようす)



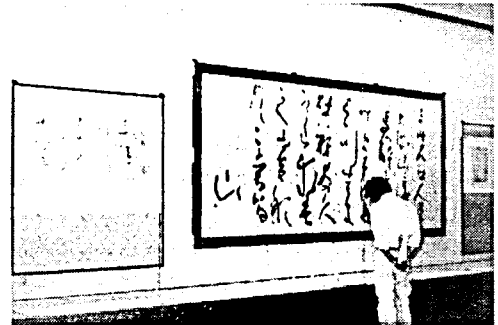
(落ち着いた雰囲気的美術館全景)

であり知らなかったことを恥じ入るばかりで  
す。

出身地神戸町へ、これまでに昭和を代表する  
名作102点が寄贈されました。その中には、昭  
和39年作の「三母呂六曲屏風」昭和56年作の  
「古池六曲屏風」の大作をはじめ、日展、日本  
書芸院展、朝日二十人展、傘寿記念個展等への  
出品作が多く、神戸町だけの財産ではなく、県  
民、国民の宝物、それが多くの方々にも公開され  
る美術館の完成だけに、文化・美術活動の場と  
しても、今後期待されるどころ大です。

第1展示室116㎡、第2展示室106㎡、他に  
作品整理室、会議室があり、ゆったりとしたロ  
ビーも雰囲気がいいものです。鉄筋コンクリー  
ト造瓦葺平屋建、建築延面積559.26㎡、総事  
業費約1億5千万円。今春は、開館記念で無料  
公開されていましたが、現在は建築物の乾燥中  
で休館しており、秋、11月10日より正式に開  
館される予定です。書に興味のある人だけでな  
く、より多くの県民の方々に訪れていただき、  
「書」を通して、日比野五鳳翁その人への関心  
と理解を深めていただきたいものです。

(三母呂六曲屏風の展示)



## ひるがの高原湿原植物園

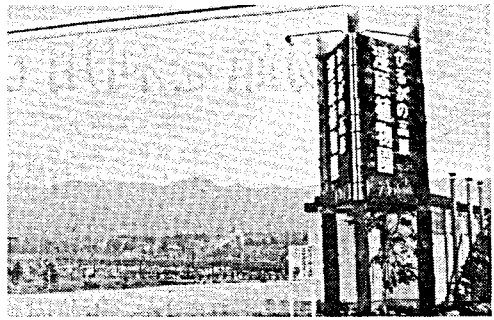
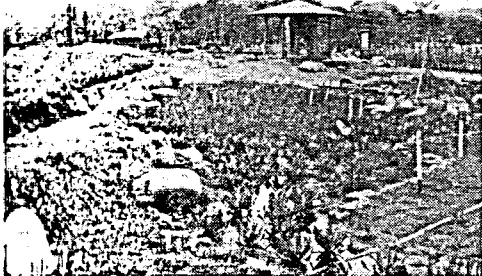
〒501-53 郡上郡高鷲村大字大鷲  
高鷲村役場  
TEL 05757-2-5111

ひるがの高原といえばミズバショウ、5月のゴールデンウィークともなると大変な人出で賑わっています。高原の涼風を売物に、テニスコートづくりが盛んです。経済成長期の別荘地分譲造成も盛んに行なわれ、学術的にも、景観的にも貴重な存在であった泥炭層湿原が、どんどん失われてしまったことは事実です。

ひるがの湿原の価値は、ただミズバショウの清純な花が群生することにあるではありません。県内各地には、飛騨山間の寒冷地に、30ヶ所を越えるミズバショウ自生地があります。雪どけとともに咲くミズバショウを筆頭に、ワタスゲ、コバイケイソウなど、自然史の象徴的な存在である植物の数々があること、それらの分布の南限地にあることなどのほか、泥炭層湿原という特殊な存在の自然、それが今日にいたるまでの歴史を秘めたかけがえのないものであります。まわりの山岳、地形、動植物界も含めて価値が高いのが「ひるがの湿原」です。

これまで土地としての経済的価値観だけで見られてこなかったこの地の湿原、その自然の宝物を、何とかそっくり子孫にも残してやりたいと、広大なイヌツゲを主とした湿原一帯が、所有者の福手豊丸氏から、高鷲村へ寄贈されました。世に自然保護の大切さが叫ばれ、自然環

(あずま家も作られている園地)



(植物園入口の標識)

境保全行政が推進されている今日の社会情勢の中でも、この福手氏の自然への理解の深さと寄付行為への英断は、特筆されるべき歴史的な英知だといえます。ただでさえ、ひるがの高原一帯の自然破壊を批難される矢面に立たされている村当局であるだけに、この湿原を植物園として整備し、公開しつつ保存することになったのです。無料公開ですから、いつでも家族連れで散策され、岐阜県というよりは日本列島の中でこの地の湿原の自然を、知的に探索してほしいものです。

人々があまり野外に出ない梅雨期中の6月には、ワタスゲ、ノハナショウブ、レンゲツツジ、そして初夏にはコバイケイソウ、やがて秋のエゾリンドウ、ミズギク……と、四季折々の花の移り変わりだけでなく、コナラ林やミズナラ林の雑木林の四季、大日岳への山登り、湿原内の植物社会と、別荘地造成空地の植物社会との比較など、安心して親子で自然を学ぶことのできる場所です。一日も早い観察の手引きなどの、補助教材、家庭向け自然読本などの出現が望まれます。

(ひるがの湿原を代表するイヌツゲ群落)



# 博物館を利用して学習したい

岐阜大学教育学部附属中学校教諭 加藤 栄一

博物館と学校教育とのかかわりについては、昔から論議されている割には、現実のものとしてその利用の実践はみられません。物理的な制約が、大きな原因となっていて、博物館のよさはわかっている、学校現場から児童生徒ぐみで出かけて行くことができにくいのも事実です。

個人的には博物館へは、生徒や家族とともに何回もでかけています。今、改めてテーマにむかいますと、博物館に対する認識の甘さがわかり、いささか筆が鈍りました。だが、この機会に学習をせよ、ということだと思い、おこがましいことを承知で、思いをのべます。

× × ×

博物館へでかけるといって、「展示場を見に行く」と考え、「博物館を利用して学習する」とは、なかなか思えません。県の博物館条例にも、「博物館が、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与する……」と、設置の理由がのべてあります。にもかかわらず、博物館という、ガラス越しに陳列物を見て廻るという発想が払拭できません。館側も、収蔵庫に収集管理するだけでは、博物館としての機能を発揮しかねるわけですから、展示企画（年に2回ぐらいの特別展等）をたてられます。

だが、ここに問題があるのではないのでしょうか。確かに、博物館の主たる目的は、人文・自然の資料を組織的に収集し、公開することとされています。でも、展示・公開のみに重きを置けば、その「限界」は、早いのではないのでしょうか。歴史上の遺物、ねうちのある遺物は、数が限られてきます。個人の収蔵物となっているものもあるでしょう。それは、人の目に触れさせたくないものだってあると思います。たとえ貸していただけても、保証金が必要でしょう。とすれば当然「ガラス」越しになるわけです。

と考えると、今まで、年2回ぐらいずつの特別展をよく企画されたなあと思えてきます。

次のような考えはどうでしょうか。

- ①利用者、館側ともに、博物館についての意識をかえる・・・博物館は見に行くところ、見せるのではなく、博物館を（博物館で）利用し、幅広い学習活動をする場とする。
- ②展示物は、実物模型を多くとり入れる・・・完成品でなくても、部品から完成品までの過程を主として展示する。過程のしくみ、技術・手法を主とする。
- ③総花的な展示から、部分展示へ
- ④博物館で、問題みつけをし、解決の手法・方向をさがしだせる学習コーナーを主流とする等

むしろ「実物」にまさるものはないと思いつつも、やはり手でさわったり、じっくりかえしたりして、調べたいのが、学習の真の目的だと思いますし、生徒は「作業学習」が大好きなのです。だから完成品までの過程のしくみを重視すれば「模造品」も生きてくるし、安心してさわらせてみます。学習させられます。

数年前、生徒を引率して博物館見学をしました。見学ノートを作り、ノートにチェックしながらの学習でした。だが、生徒の興味を高めることは指導不足で不十分でした。

千葉の佐倉にある国立民博が、館内でコピーサービスをしたり、見学者の操作により展示物へ働きかける装置がふんだんにとり入れてあります。これらの装置も 実物模型 ならばこそできるものです。

県博をはじめ県内各地の郷土館、歴史民俗資料館等の博物館も、このような学習の場が主流にならないかなと思います。と同時に私も現場人も、博物館に対する認識をもっと深めねばと改めて思いました。

## 昭和58年度 岐阜県博物館協会収支決算書

前期繰越額	149,332円
収入金	1,018,480円
合計	1,167,812円
支出額	775,081円
次期繰越額	392,731円
合計	1,167,812円

### 内訳(収入)

(単位 円)

科 目	予 算 額	収 入 済 額	増 減 (△)	備 考
前年度より繰越	149,332	149,332	0	
会 費	455,000	467,000	12,000	
補 助 金	540,000	540,000	0	
要 覧 頒 布 料	8,000	6,800	△ 1,200	
雑 収 入	5,000	4,680	△ 320	ポスター 1,560円 利息 3,120円
計	1,157,332	1,167,812	10,480	

### (支出)

科 目	予 算 額	支 出 額	予 算 残 額	備 考
事 務 局 費	160,000	120,057	39,943	
通 信 連 絡 費	130,000	90,267	39,943	
会 議 費	5,000	0	5,000	
印 刷 費	15,000	400	14,600	
需 要 費	10,000	29,390	△ 19,390	
機 関 紙 費	360,000	351,917	8,083	「岐阜の博物館」年4回発行
印 刷 費	200,000	188,500	11,500	
送 材 料	50,000	50,000	0	
取 材 費	100,000	113,417	△ 13,417	日博協全国大会他取材調査旅費
会 議 費	10,000	0	10,000	
セ ミ ナ ー 費	160,000	135,710	24,290	セミナー4回開催
開 催 費	120,000	110,000	10,000	
印 刷 費	10,000	0	10,000	
通 信 連 絡 費	20,000	20,000	0	
会 費	10,000	5,710	4,290	
要 覧 作 製 費	230,000	5,600	224,400	
編 集 事 務 費	30,000	5,600	24,400	
印 刷 製 本 準 備 預 立 金	200,000	0	200,000	59年度に加算
三 県 交 流 研 修 費	17,000	19,673	△ 2,673	研修参加旅費(名張市)
東 海 博 総 会 費	38,000	23,893	14,107	総会出席旅費及び会費(犬山市)
会 費	10,000	10,000	0	
旅 費	28,000	13,893	14,107	
日 博 協 全 国 大 会 費	52,000	0	52,000	
総 会 費	50,000	43,000	7,000	通常総会開催経費
通 信 費	10,000	10,000	0	
会 場 費	6,000	5,500	500	
印 刷 費	4,000	0	4,000	
食 糧 費	30,000	27,500	2,500	
学 芸 技 術 員 講 習 会 費	5,000	0	5,000	
常 任 理 事 会 費	60,000	69,531	△ 9,531	常任理事会開催経費
会 議 費	15,000	29,531	△ 14,650	
旅 費	45,000	39,881	5,119	
表 彰 費	5,000	2,000	3,000	
振 替 手 数 料	5,000	3,700	1,300	74件
慶 弔 費	10,000	0	10,000	
予 備 費	5,332	0	5,332	
計	1,157,332	775,081	382,251	

## 昭和59年度 岐阜県博物館協会収支予算

収入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
前年度より繰越額	392,731	149,332	243,399	
会 費	474,000	455,000	19,000	県立 2館 20,000円 市町村立37館(新規加入2館を 含む) 185,000円 私立法入 147,000円 個人会員33人(新規加入1人を 含む) 66,000円 高山市賛助会費 50,000円 入会金 2館+1人 6,000円
補 助 金	540,000	540,000	0	県440,000円 岐阜市100,000円
要 覧 頒 布 料	2,000	8,000	△ 6,000	旧要覧 @200円×10冊
雑 収 入	5,000	5,000	0	利息など
計	1,413,731	1,157,332	256,399	

支出の部

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減(△)	備 考
事 務 局 費	160,000	160,000	0	
通 信 連 絡 費	130,000	130,000	0	
会 議 費	5,000	5,000	0	
印 刷 費	15,000	15,000	0	
機 関 紙 費	360,000	360,000	0	
印 刷 費	200,000	200,000	0	
送 料	50,000	50,000	0	
取 材 費	100,000	100,000	0	
会 議 費	10,000	10,000	0	
セ ミ ナ ー 費	160,000	160,000	0	
開 催 費	120,000	120,000	0	
印 刷 費	10,000	10,000	0	
通 信 連 絡 費	20,000	20,000	0	
会 議 費	10,000	10,000	0	
要 覧 作 製 費	430,000	230,000	200,000	前年度積立金を加算
編 集 事 務 費	30,000	30,000	0	
印 刷 製 本 準 備 積 立 金	400,000	200,000	200,000	
三 県 交 流 研 修 費	17,000	17,000	0	開催地 愛知県
東 海 博 覧 会 費	48,000	38,000	10,000	開催地 山梨県
会 費	10,000	10,000	0	
旅 費	38,000	28,000	10,000	
日 博 協 全 国 大 会 費	65,000	52,000	13,000	開催地 岩手県
総 会 費	50,000	50,000	0	
通 信 費	10,000	10,000	0	
会 場 費	6,000	6,000	0	
印 刷 費	4,000	4,000	0	
食 糧 費	30,000	30,000	0	
学 芸 技 術 員 講 習 会 費	5,000	5,000	0	
常 任 理 事 会 費	65,000	60,000	5,000	
会 議 費	20,000	15,000	5,000	
旅 費	45,000	45,000	0	
表 彰 費	10,000	5,000	5,000	
振 替 手 数 料	5,000	5,000	0	
授 与 費	10,000	10,000	0	
予 備 費	28,731	5,332	23,399	
計	1,413,731	1,157,332	256,399	

## 岐阜県博物館協会役員（昭和59年～60年）

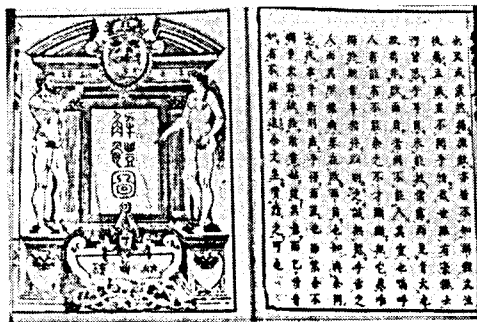
名誉会長	上松陽助（岐阜県知事）	顧問	松尾克美（済美女子高等学校長）
会長	蒔田 浩（岐阜市長）		吉田幸平（濃飛甲冑研究所長）
副会長	平田吉郎（高山市長）	事務局	岐阜県博物館内（〒501-32 関市小 屋名 TEL 05752（8）3111）
	郷 浩	事務局長	西村義郎（主幹）
	関谷美智男（岐阜県博物館長）	事務局員	増田義明（人文係長）
理事長	青木允夫（内藤記念くすり博物館長）		中村 惇（庶務係長）
常任理事			早川つな（主事）
（岐阜）	竹村信弘（岐阜市少年科学センター）		青山貴子
	名和秀雄（名和昆虫博物館）	専門委員会	
	平野 元（岐阜県美術館）	○機関紙委員会	
（東濃）	後藤多賀志（瑞浪市化石博物館）	委員長	小野木三郎（岐阜県博物館学芸員）
	樹神 弘（岩村町郷土館）	委員	安藤志郎（同上）
（西濃）	鹿野幸吉（大垣城郷土博物館）		古田恵子（元内藤記念くすり博 物館学芸員）
	中川 連		宮崎 惇（松枝小学校長）
（北濃）	松本五三（郡上八幡民芸美術館）	○学芸技術員講習会実行委員会	
	若宮多門（若宮修古館）	委員長	松本秀夫
（飛驒）	沖垣内堯（高山市郷土館）	委員	上村 修
	大野良彦（飛驒民俗村）		小野木三郎
（専門委）	小野木三郎（機関紙委員会委員長）		名和秀雄
	松本秀夫（学芸技術員講習会 実行委員会委員長）	○セミナー委員会	
理事	浅見昭子（浅見化石会館）	委員長	関谷美智男（岐阜県博物館）
	上村 修	岐阜地区	竹村信弘（岐阜市 少年科学センター）
	大江 傘（中部山岳考古館）	（5）	林 伸一（岐阜県美術館）
	大橋宣嘉（飛驒大鍾乳洞）		早瀬雅啓（古陶館）
	小栗克介（美濃歌舞伎博物館）		松本秀夫
	尾内広行（高原郷土館）		関谷美智男（岐阜県博物館）
	金子貞二（明方村立博物館）	東濃地区	後藤多賀志（瑞浪市化石博物館）
	日下部 尚（日下部民芸館）	（3）	樹神 弘（岩村町郷土館）
	熊沢輝雄（岐阜県陶磁器陳列館）		日東勝郎（土岐市美濃陶磁器歴史館）
	谷口 勉（高山屋台会館）	西濃地区	鹿野幸吉（大垣城郷土博物館）
	土田吉左衛門	（3）	中川 連
	早瀬雅啓（古陶館）		若山 進（関ヶ原歴史資料館）
	和田正美（白川郷合掌の里）	北濃地区	金子貞二（明方村立博物館）
監事	石川良宣	（3）	松本五三（郡上八幡民芸美術館）
	藤田松太郎		若宮多門（若宮集古館）
	松田 充	飛驒地区	大野良彦（飛驒民俗村）
顧問	石田豪澄	（3）	沖垣内堯（高山市郷土館）
	大橋桃之輔（前岐阜県博物館長）		土田吉左衛門
	長倉三朗（飛驒民俗村名誉村長）		
	広瀬 鎮（モンキーセンター学芸部長）		

藤橋村歴史民俗資料館オープン

ダム建設に伴い、空き家となった「かやぶき」の民家を、藤橋村では移転復元し、歴史民俗資料館として保存する事業が行なわれてきました。今夏、そのうち三戸の移転が完了し、去る7月27日開館式が行なわれました。完成した三戸は、かやぶき平屋建てで、どれも200年以上前に建てられたもの、あと二戸の移転復元も計画されています。



県博特別展「美濃の蘭学」へどうぞ



(日本最初の西洋医学の翻訳書、解体新書)

岐阜県博物館では、10月9日から11月25日まで表記の特別展を開催、蘭学の発展、普及に貢献した美濃地方にかかわる人々の著書、遺品などをもとに、近代科学発展への足跡を紹介します。前野良沢に学んだ江馬蘭齋をはじめ、小森玄良、坪井信道、飯沼慾齋、宇田川榕庵など、医学を中心に、薬学、植物学、化学にと、当時の人々が自然科学の学問へかけた情熱にふれ、

その足跡をふりかえることは、科学の時代といわれる現代社会に生きる私たちにとって意義深いことです。10月14日午後には、日本医史学会評議員青木一郎氏の講演「美濃の蘭学」が行なわれます。

新加入館園

- ひるがの高原湿原植物園 〒501-53 郡上郡  
高鷲村大字大鷲、高鷲村役場代表永瀬利一  
村長 TEL<05757>-2-5111  
羽島市歴史民俗資料館 〒501-62 羽島市竹鼻  
町丸の内6-153 TEL<0583> 91-2234  
宝光院宝物館 〒503 大垣市野口1-39-1  
TEL<0584> 91-8326

全国博物館職員録の案内

日本博物館協会より、全国の博物館職員約4000名を掲載した職員録が頒価4,500円(送料実費)で発行されています。博物館業務の推進のために、各館園でもぜひお備え下さい。申込み先は、〒103 東京都中央区日本橋茅場町1-10-4 浦上天珠堂第一ビル 日本博物館協会 TEL 03-669-2221 (代)

編集後記 ◎昨年から、本誌の発行が、春の総会後も、大幅に遅れ遅れで、秋近くからの4号発行と悪い習慣化?となってしまったようです。

◎当初は意気込んで、原稿依頼をいくつも発送しているのですが、なかなか書いていただけないのが現状です。特別に締切り日を設けていませんので、日頃の思い、実践、新収蔵資料の紹介、博物館界への提言、その他何でも気軽に原稿お寄せください。

◎第32回全国博物館大会は「教育改革と博物館」を大会テーマに、盛岡市で行なわれます。次号では、シンポジウム、全体会、分科会等の内容をお伝えします。(S.O)